

「2017年度第2四半期決算」説明会

主な質疑応答

1. 神戸製鋼所の製品強度問題について

(1) 安全性や費用請求に対する考え方は？納入先から何か要望を受けているか？

- ・ 調査を終えていない現段階において、様々な判断ができる状況にはないが、官庁を含む納入先に対しては、必要な情報を適宜提供している。
- ・ 安全性については、現調査段階において、重大な懸念が生じる事象は発見されていない。
- ・ 費用請求については、仮定の話なので何とも言えないが、調査の結果判明した事実に応じて適正に対応する。

(2) 影響を受ける製品およびその規模は？今後の対応方針は？

- ・ 神戸製鋼から調達した材料は、航空エンジンを含む様々な製品に使用されており、問題のある材料の使用有無や購入部品に当該材料が使用されているかどうかも含め、網羅的に調査を行っている。
- ・ 製品や分野別の調査結果によって、影響が認められる材料については、その影響度や緊急度、納入先からの要望に応じて、適切な対応を取る。

(3) 特殊な材料の調達に問題は生じないのか？

- ・ 航空分野で使用している重要部材については、東日本大震災以降、デュアルソース化やサプライチェーンにおけるボトルネック解消を進めてきているため、特殊部材の調達に関する問題は生じていない。

2. 北米におけるプロセスプラント案件の採算悪化について

(1) 工事自体の採算は赤字になっているのか？

- ・ 第2四半期において、赤字工事となり、受注工事損失引当金対象となった。
- ・ 本案件の期初予想に対する工事採算の悪化額として、4-6月期に約40億円、7-9月期に約90億円を織り込んだ。

(2) 現在想定している納期は？

- ・ 現在の工程遅れは、お客さまとIHIのそれぞれが責任を負うべき要因が混在している。よって、お客さまとの交渉もあり、納期については、この場で確定的なことを言える段階にない。
- ・ 今期は、IHIが責任を負うべき要因による工程遅れを解消するための費用を計上した。

3. 民間向け航空エンジン事業に係る契約調整負担金の具体的な内容は？

- ・ お客さまとの契約見直しに基づく費用だが、守秘義務契約にもとづき、詳細についての言及は控える。

4. 第3四半期以降の前提為替レートを105円/USDに据え置いた理由は？
- ・ 想定している前提為替レートが現在の為替水準に対して円高水準であることは事実だが、昨年までの水準を考えると、決して過度の円高水準とは言えない。また、地政学的リスクによって急速な円高局面を迎える可能性も否めず、期初の想定通り、105円/USDに据え置いた。
5. 経営目標数値である、2018年度の営業利益率7%の達成に向けた、具体的な道筋は？
- ・ 主に、以下の二点。
 - ・ 資源・エネルギー・環境事業の業績下振れ解消による利益の底上げ。
 - ・ リソース配分の全体最適化を一つの狙いとして今期から事業領域制を導入した。この事業領域制の下で進行中の施策が効果を発揮することによる収益性向上。特に、産業システム・汎用機械事業に期待。
6. ユーブポイント天然ガス液化設備の工事遂行状況と今後のコスト見通しは？
- ・ 開示資料に記載している厳しいスケジュールを守るべく、懸命に工事を遂行しており、現時点、損益的な影響はない。
7. IHI E&Cについて、今後の事業運営に対する考えは？
- ・ 現在は大型工事の受注を手控えており、手持ち工事の遂行ならびに、収益性が良いFEED(Front End Engineering And Design)・FS(Feasibility Study)に限定した受注活動に留めている。
 - ・ 将来については、事業規模の縮小を基調としながら、IHIグループが北米市場において事業を展開する中で一定の機能を担うべく、今後の在り方を検討することになるだろう。
8. SPBタンクの工事遂行状況は？
- ・ 受注している4隻分のSPBタンクのうち、2隻分の搭載が完了し、残り2隻分の搭載に向けて、納期を守るべく作業が進行中である。
9. 航空・宇宙・防衛事業について、4-6月期に比べて7-9月期の営業利益額が減少している要因は？
- ・ 主な要因は、航空エンジンの補償工事費の増加。航空エンジンビジネスでは、補償工事費関連の費用が往々にして発生するが、それを適時かつ適正に処理しようとする、一件当たりの金額規模が比較的大きいこともあり、四半期単位の損益がどうしても歪んでしまうことがある。
 - ・ なお、全社（調整）の欄において、保証工事引当金として30億円を計上しているが、これは、将来に補償工事が発生する可能性に鑑み、会計上算定した費用である。

以上